

東日本大震災 復興のカギは「芸術・文化」 —「GBFund」第12回助成活動を決定—

伝統工芸の復活・産業化や、被災地とアーティストの新たな関わり方が始まっています

津波による工房流失で危ぶまれた柳生和紙の技術継承と伝統の復活、強度のある新素材開発に取り組んできた「潮紙和紙工房」が、いよいよ新たなデザインによる商品販売を目指します。また、被災者の思いを汲み取るアーティストの活動、「ヒューマンセレブレーション 三陸国際芸術祭 2015」や「小森はるか+瀬尾夏美巡回展『波のした、土のうえ』」などが、震災復興における芸術・文化の新しい方向性を示します。

公益社団法人企業メセナ協議会(理事長:尾崎元規 [花王株式会社 顧問、東京都港区芝 5-3-2])は、このたび「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド:GBFund」の第12回助成選考委員会を行い、新たに15件を採択しました(一覧は次頁に掲載)。このうち、祭りや郷土芸能を支援する「百祭復興プロジェクト」では5件を採択。今回の助成総額495万円。これまでの寄付総額累計は1億4,546万4,736円。



手すき和紙の新たな可能性
(一般社団法人 潮紙)



ヒューマンセレブレーション 三陸国際芸術祭
(NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク)



『うたうひと』東北上映会+「語る/聞く」場の開催
(一般社団法人サイレントヴォイス)

■「文化は日常、文化は栄養素」—ジャズピアニスト・小曾根真氏が語る

東北の方たちにとって、気持ち的に忘れられてしまうのが一番不安だと思います。「忘れないで支援を続けようとしている人間もいるから、それを信じて安心してください。」というメッセージを、寄付することで少しでもお伝えしたかったのです。そしてGBFundによってみなさんが元気になる、楽しくなるようなことが何か実現できることを願っています。

文化は日常に近いところにあって人間の心を豊かにするもの。娯楽や消費とは違います。生きることに於いて、文化はとても大切な栄養素。常に補充されていて、どこにでもあるものとして、手に届く範囲にあってほしい。生きているもの同士がエネルギーをみんなでシェアすること、これが文化です。人間の生きる五感をすべて使ってやりとりすることが、生きるうえで欠かせないことです。

※友人のミュージシャンたちと共同で作った東日本大震災の被災地を支援する「Live & Let Live」プロジェクトにより制作されたチャリティCDの売り上げを2011年よりGBFundに継続して寄付している。



©Kiyotaka Saito

東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド「GBFund」活動状況

[2015年7月6日現在] 寄付総額1億4,546万4,736円、助成総額1億4,095万9,923円、助成活動件数239件

■GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)

GBFund(ジービーファンド、G:芸術、B:文化、F:復興/ファンド)は、2011年3月23日に企業メセナ協議会が立ち上げた芸術・文化による復興支援ファンド。趣旨に賛同くださった寄付者とともに、設立より5年間、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術・文化活動や、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動を支援する。次回選考(第13回)は2015年10月を予定。

■百祭復興プロジェクト

GBFundの中で、郷土芸能や祭りを重点支援する目的で2012年3月に設置された助成枠。



GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)助成活動一覧【第12回】



活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
平成 27 年度東日本大震災被害備品整備事業 砂子畑道々虎舞(岩手県) 2015 年 7 月 1 日～2015 年 12 月 31 日 岩手県釜石市栗林町内	釜石市栗林町に伝わる虎舞で、地元の祭りや市内イベントに参加してきたが、津波被害により道具類を流失した。震災後は仮設住宅により人口が増え、虎舞に参加する小中学生も増えていることから、流失した虎頭を整備し、新たな住民を含め多くの人への継承を目指す。
手すき和紙の新たな可能性の開発 一般社団法人潮紙(宮城県) 2015 年 6 月 1 日～2015 年 12 月 31 日 手漉き和紙工房 潮紙(宮城県宮城県柴田郡川崎町)	宮城県に 400 年伝わる柳生和紙工房が津波により流失。継承が危ぶまれるが、2013 年、強度がある和紙の試作開発に成功(第 9 回採択による)。強制紙・柳生紙子を、植物性の革という新たな素材として販路を見出し、挑戦を開始。破けにくい特徴と手漉き和紙の風合いを加工で活かし、新たなデザインで商品開発することで「使われる和紙」を目指す。今回は製品として販売できるプロトタイプの開発。
甦れ朝日座 ～記憶の中に～ 朝日座を楽しむ会(福島県) 2015 年 6 月 13 日～2016 年 2 月 13 日 朝日座(福島県南相馬市)	1923 年南相馬市原町に地元旦那衆で設立された芝居小屋・常設活動写真小屋の「旭座」。1952 年に「朝日座」と改名し映画の常設館となる。1991 年の閉館後、保存活動がおこり 2008 年に「朝日座を楽しむ会」発足とともに再開。原子力発電所の事故により高齢者所帯が多くなった町で朝日座を中心に映画文化をとおしたコミュニティの再生と活性化を図る。
港町の人と風景の写真コンテスト・写真教室 中之作プロジェクト(福島県) 2015 年 6 月 1 日～2015 年 8 月 31 日 清航館(福島県いわき市)	会場となる「清航館」は築 200 年の古民家。取り壊されるところを同団体が買い取り、今ではコミュニティの拠点に。本活動は、震災によって拍車がかかる地域の過疎化、高齢化、街並み保存に対する取り組みとして、3 回目の開催。中之作は津波被害が奇跡的に小さかったため、高い防波堤に囲まれることなく、港から海が見える。この風景と人をテーマに、情緒あふれる地域の魅力発信を目指す。
なつかしい未来創造事業 アーティスト・イン・レジデンスプログラム (陸前高田 AIR)2015 なつかしい未来創造株式会社(宮城県) 2015 年 6 月 1 日～2016 年 3 月 31 日 岩手県陸前高田市、いわき芸術文化交流館アリオス(福島県いわき市)等	陸前高田市の人々の心の復興を目的とし、今年で 3 年目の実施。海外アーティストを招聘する滞在プログラム、東北の各拠点においてダンサーの制作・発表を行うネットワーク事業、東北で活動するアートマネジャーをゲストに地域のアートプロジェクトを考える陸前高田ミーティング「未来編」、そして過去 2 年間に招聘したアーティストの作品を加えた 3 年間の成果発表を行う。
わわ新聞 2015 年度発行 一般社団法人非営利芸術活動団体コマンド N(東京都) 2015 年 7 月 1 日～2016 年 3 月 31 日 編集部:KANDADA3331(コマンド N 事務所)	2011 年 9 月から年 4 回、3 万 5 千～4 万部を発行する震災復興を目的としたコミュニティ新聞。主に仮設住宅入居者を読者層にもち、各地の復興プロセスの好事例紹介や地域の中に閉ざされがちな情報をむすび、つながりを生み出すことを目指す。多くの災害公営住宅の完成が見込まれ、仮設を出る人が増えると予想されるなか、新しい読者層の開拓と web サイト版の充実を図る。

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
陸前高田市における図書館再建の基礎資料としての住民意識調査事業 北海道ブックシェアリング(北海道) 2015年6月1日～2015年12月31日 岩手県陸前高田市立図書館、陸前高田市竹駒コミュニティセンター、札幌市民活動プラザ星園、札幌大谷大学	震災により建物が壊滅、職員全員が死亡・行方不明となった陸前高田市立図書館。その再建に向け、同市で支援活動を続けてきた団体が、各戸訪問での聞き取りによる住民意向調査を行う。報告書を市の教育委員会に提供することで、住民目線での図書館再建を目指す。
陸前高田市高田町 うごく七夕まつり 中央祭組 中央祭組(岩手県) 2015年5月19日～2015年8月16日 岩手県陸前高田市旧高田町内	七夕祭りに使用する山車および装飾品を町内会で製作。山車の土台は震災後、がれきから救出し使い続けているが、腐食が進んでいるため修繕・作り直しをする。祭りへの参加を続けることで、震災以前のコミュニティと賑わいを保ち、転出した人たちが帰って来られる故郷を残していく。
「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」および東日本大震災記録映画上映プロジェクト2015 認定 NPO 法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭(山形県) 2015年5月19日～2016年3月31日 山形ドキュメンタリーフィルム・ライブラリー、山形美術館	1990年より始まった映画祭は、2011年より東日本震災復興ボランティア上映会を継続開催。2014年には「3.11ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」を設立し東日本大震災に関する記録映画を収集・保存。ウェブ上にデータベースを構築し国内外に発信。恒常的にアーカイブを実施し、登録作品の上映会を開催。
小森はるか+瀬尾夏美巡回展「波のした、土のうえ」 小森はるか+瀬尾夏美(岩手県) 2015年5月19日～2016年3月31日 岩手県陸前高田市、盛岡市/宮城県仙台市/石川県金沢市、静岡市/福島県南相馬市、福島市/兵庫県神戸市、大阪市	2012年に陸前高田市に拠点を移し、生活しながら地域の人々の声や町の風景を写真・映像・テキスト・ドローイング絵画等で記録し続け、2014年、3年間の記録を住民との協働で壁面に構成したインスタレーションを軸に展覧会を開催。今回はそれらを日本全国へ届けることを目的に巡回展を行う。ワークショップや対談・対話の場を創出しながら各地の人々の声を集積する。
平成27年度東日本大震災被害備品整備事業 砂子畑丹内神楽(岩手県) 2015年7月1日～2015年12月31日 釜石市栗林町内	釜石市の無形文化財であり、小学校への演舞指導や祭りへの参加で地域に身近な郷土芸能であったが、震災時に用具類一式を流失し、活動ができない状況にある。用具を整備し以前の活動を再開することで、地元を離れた若者や、震災により新たに住民となった人も含め多くの人たちへの神楽の伝承を目指す。
『うたうひと』東北上映会+「語る／聞く」場の開催 一般社団法人サイレントヴォイス(宮城県) 2015年5月19日～2016年3月31日 東北沿岸部一帯の仮設住宅集会所等	東北沿岸部の被災者および主に高齢者を対象に、東北記録映画三部作の第三部『うたうひと』の無料上映を行い、集いと憩いの場を提供。映画による民話による文化の伝承の再構築も目指す。上映後に「聞く/話す」の場を設け、世代を超えた場を創造しコミュニティ再生の一助を担うことを狙いとする。



活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
歴史ある「気仙」の文化を継承する「(仮称)気仙職人学校」の立ち上げをめざして～「第2回気仙大工セミナー」の開催～ 特定非営利活動法人 伝統木構造の会(埼玉県) 2015年6月1日～2016年3月31日 箱根山テラス、及び気仙大工左官伝承館(又は杉の家)	気仙地方に古くから伝わる「気仙大工」の文化を後世に伝えるため「(仮称)気仙職人学校」の設立を目標に、教材テキスト『気仙大工概説』作成(第5回採択)。次段階として2014年より気仙大工セミナーを開始(第10回採択)。伝統文化の継承と次世代育成の機運醸成に向けて、市民の共感を得ながら今年度も継続してセミナーを実施。
 「ヒューマンセレブレーション 三陸国際芸術祭2015」 NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(京都府) 2015年8月16日～2015年10月18日 陸前高田市気仙大工伝承館、大船渡市碁石海岸キャンプ場など	文化芸術による復興と新たな文化芸術の創出を目的に、郷土芸能の魅力再発見と内外への発信、三陸の人々の人生を礼賛した舞台作品の制作・発表、郷土芸能を通じた国際交流を行う、今年2年目の取り組みです。期間を8日間から2か月半とし、海外招聘チームの拡大やワークショップによる東北の人との関わり合い等、交流をより重視した内容のために充当します。
 山田大神楽保存会 山田大神楽保存会(岩手県) 2015年5月19日～2016年3月31日 岩手県下閉伊郡山田町	江戸時代、岩手南部藩御用達の芸能集団により習得された伊勢神宮の大神楽が岩手県沿岸地方に広まり、山田町関谷地区では明治初年に伝授され、山田大神楽として継承されてきた。清めの舞、悪魔祓いとして毎年町内の祭典で奉納する。9月の例大祭では、海を渡御する珍しい山田の暴れ神輿の先陣を清め舞う。今回は使えなくなった衣装を購入、デザインも一新する。

 ※百祭復興プロジェクト採択活動

■公益社団法人企業メセナ協議会

芸術・文化振興による社会創造を目的として、企業をはじめ文化に関わる団体が参加、協働する民間の公益法人。創造的で活力にあふれた社会、多様性を尊重する豊かな社会の実現に寄与すべく、企業メセナの推進を中心に、文化振興に関する調査・研究、認定・顕彰、交流、発信等の事業を行う。会長：高嶋達佳([株]電通会長)、理事長：尾崎元規(花王[株]顧問)。会員171社・団体/20名(2015年7月7日現在)。

【本件に関するお問合せ先】

公益社団法人企業メセナ協議会 広報担当：坂本 GBFund 担当：佐藤・伊藤・根本
 〒108-0014 港区芝 5-3-2 アイセ芝ビル 8階 TEL:03-5439-4520 FAX:03-5439-4521
 URL:www.mecenat.or.jp/gbfund/ E-mail: mecenat@mecenat.or.jp